

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム 和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地-1		
自己評価作成日	令和2年2月23日	評価結果市町村受理日	令和2年 5月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和2年3月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホームには、入居者様9名の内、介護度1の方4名、介護度2の方2名と比較的軽度の入居者様が多くその介護度に合わせて自由に個性的な生活をしていただきながら、毎月多彩なイベントを計画実行し楽しいグループ生活を送って頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、以前病院施設だった場所を利用しているため、廊下やトイレ、リビングなど全体的に広く、職員にとって介護しやすい。壁や階段の踊り場に絵皿や古い和筆筒が置かれ、空間に癒しと潤いを与えている。事業所の優れている点として、①面談や会議にて職員の意見を取り入れることで、働きやすさに繋がっていること、②防災への意識が強く、土砂災害を想定した避難経路を地域住民と確認しあい、協力体制の構築に努めていること、③AEDの設置がなされ、看取りや終末期の対応が可能で、利用者が適切な医療が受けられるよう支援していることが挙げられる。工夫点では、利用者の思いやこだわりなど把握に努め、職員が連絡ノートにより情報共有を行い、ケアに当たっていることがあげられる。また、2か月ごとに利用者の生活の状況を記したお便りを家族へ送り、「様子がわかり、安心である」と信頼を得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護1～5の介護度、いろいろの介護に合わせてみんなで家族のような雰囲気を作り、楽しく笑顔の多い生活をしている	企業理念・介護事業部の理念があり、それをもとに事業所目標をかかげ、廊下に掲示するとともに、カンファレンス時に目標の確認をしている。外部評価時に振り返りをしている。	事業所の目標について、職員の思いや達成度を確認し、振り返りを行うことで、理念が行動規範の柱となるように期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の餅つきを石うすを利用し、地域の方々を手伝っていただきながらみんなで楽しんでいただいている	地域の秋祭りに参加したり、地域の清掃活動の時には、あいさつや差し入れを行い交流している。事業所では、敬老会・もちつきなどの行事を開催し、ボランティアを招き、地域の人とふれあい楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が日ごろから練習をしている傘おどり等を、披露する場として利用していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加していただいている地域の方、ご家族に看取り等の具体的な例を説明し話し合っている	家族・包括支援センター・地域住民の参加を得て開催している。事業所の実情やケアの取り組みを伝え、行事について参加を要請するなど協力関係を築いている。会議での話し合いや意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にほぼ毎回地域包括支援センターのスタッフに参加依頼をして情報を伝えている	運営推進会議を通して、包括支援センターとは連携を密に行っている。市東区担当者とは、管理者が窓口となり、相談事などあれば、電話で相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回外部の講師に研修依頼し勤務者以外には参加、又勤務者にはその情報を報告して全員で取り組んでいる	グループホーム協会へ講師を依頼し、『身体拘束をしないケアについて』内部研修を開催し、職員の理解に努めている。ケアや言葉について、身体拘束にあたらぬかを、お互いに確認・注意し合うなど職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろからスタッフは自由な発想で知らず知らずのうちに虐待になっていることがないように、お互いに遠慮のない雰囲気づくりをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様2名の方が成年後見制度を利用されている、日ごろからスタッフは自然に勉強できるように心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居と同時に契約の締結となり、十分な説明時間がとりにくい為、前もって入居時の必要物品を持ってきていただき、時間をとって説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等では、その都度意見交換質疑応答の時間を設け自由に意見を出していただける機会をもっている	利用者は日常生活の中で、家族は面会や電話連絡時に、意見や要望を積極的に聴いている。出された要望は連絡ノートに記載後、職員で共有し柔軟に対応している。利用者の声から外食の機会につなげる事もできた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談時間を設け管理者とスタッフ、社長とスタッフの面談で意見や提案を運営に反映させるよう努め又離職者のない安定した職場運営を進めている	年2回の面談時間を作ったり、申し送り時や2カ月毎の生活向上会議にて職員の意見を聴き、ケアに活かしている。必要な物品の購入などは、管理者から本社へ報告・対応が早く、意見が取り入れやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアマネージャーを北と南に各1名配置し、細かい情報、相談人間関係の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育担当スタッフが、年間の研修を計画し実行し自己啓発に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を持ち帰り知り得た研修内容をカンファレンス等で伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の安心を確保して行くうえで関係作りが重要です、相談者が家族であっても本人に向き合いながら気持ちを受け止めることに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様と家族との思いの違い家族同士の中で違いも含めて家族の体験や思いを理解しながら家族の思いを受け止める努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービスの利用の調整を行うなど、出来ることは速やかに実行するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者様と一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、孤独に陥りがちな利用者の安心と安定感を持っていただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、入居者様と家族の支援者でありこれまでの両者の関係を踏まえつつ家族との距離を離さないよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様がこれまで培ってきた人間関係と社会との関係を断ち切らない支援をしている (近所の方が花や野菜を差し入れてくれていた)	かつての教え子や、知人・友人・家族などの面会があり、共に会話をするなど関係継続の支援をしている。手紙が届いたときには、職員が代筆するなど、継続支援をしている。馴染みの病院受診の際は、ドライブをしていると街を懐かしむ様子もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共に助け合い、言いたいことを言い合い孤立しないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去した後も電話連絡して家族の相談などに対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様個々に合わせた声掛けをして、表情顔色食事摂取状況など確認しながら、自己決定しやすい環境づくりをしている	普段の会話や入浴などケアの際に、思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。利用者の言葉を丁寧に聴き、昔あったことやこだわりを理解するよう努めている。把握が困難な場合は、家族の情報をもとに表情やしぐさから検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様が安心して自分らしく暮らしていくことを支援し、愛着のあるものを身近に置いたり話題に取り入れたりしながら、生活の中でその人らしい生き方が出来るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が一番過ごしやすい空間を作り、一人でも多くの入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の考えではなく本人をよく知る関係者が気付いたことやアイデアを出し合い話した結果を元に作成している	入居時の情報を基に暫定で作成した後、3～6か月毎に見直しを行なっている。カンファレンスは、全職員が参加し、意見を反映した介護計画を作成している。家族へは内容を説明し、了解を得ている。	計画の見直し時に、支援経過記録の短期目標を変更することで、利用者の目標の理解とさらなる充実したケアにつなげられるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活リズムを知り、少しでも動き方に変化があれば記録に残し、スタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の体調を考慮しながら、その時のニーズに応じて入居者様に合った柔軟なサービスを取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに積極的に参加地域の方々から多くの声掛けをいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密に、いつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援している	本人や家族のかかりつけ医の希望を大切にしている。他科受診は家族に了承を得て、職員が同行支援している。2週間毎に協力医の往診と看護師による24時間オンコール体制があり、適切な医療が受けられるよう支援している。(AEDを設置している)	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の変化を看護師に報告相談して適切な対応をするように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療が終わり次第出来る限り早期の退院が出来るように病院と連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ重度化された方はおられないが今後の対応として看護師、管理者が先頭になって勉強している	入居時に、看取りの対応指針について説明し、同意を得ている。重度化した場合には、医師から家族へ説明し方針を共有している。看取りでは、職員の連携がはかれ、利用者・家族に寄り添った支援に取り組むことができ、家族にも喜んでもらうことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為にAEDを設置いつでも利用できるように体験勉強会をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している また、運営推進会議等で地域の住民の方々への協力を呼び掛けている	屋間想定で年2回の総合避難訓練を行なっている。地域との協力体制構築の必要性を感じており、土砂災害を想定し、運営推進会議の出席者と、集会所までの避難経路を確認し合った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちの思いを傾聴しながら、尊厳やプライバシーの配慮を心掛けた対話に努めている	入社時に、個人情報保護について指導している。利用者の居室入口には、暖簾を掛けたり、排泄誘導時はさりげなく声をかけ、音量・調子に配慮するなど、プライバシーを損ねない対応を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や意思表示を的確に把握して、希望に添えるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて思いを尊重しながら、穏やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴し清潔を保持し好みに合った服を着用していただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事出来るように、楽しく語らいながら共に食事をしている	利用者は下ごしらえや仕込みなど、可能な家事を行なっている。おやつは手作りで、ホットケーキやおしるこ・白玉だんごを職員と一緒に調理したり、誕生会では、おすしや赤飯・ケーキがふるまわれるなど利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を考慮しながら栄養量、水分量、顔色、表情、体調を観察しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状況に応じた支援をしている。毎食後口腔ケアの声掛けをして歯磨きが、きれいに出来ているかをチェックさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄チェック表を記録し、一人一人の排泄パターンを把握し声掛け誘導しブライドを尊重しながら支援している	排泄パターンを把握し、誘導・声掛けを行ない、昼間はトイレでの排泄を促している。夜間は、個々の状況に応じて対応している。身体機能維持のために、リハビリ室の運動機器を使用し、日々運動している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト等を取り入れながら日々の水分摂取量を記録ししっかり摂取していただいている 又、栄養のバランスの良い食事摂取にも努め便秘予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人で入浴の出来る方には、見守りをして安全安心して入浴していただいている。一部介助全介助の方一人一人の状況、希望を考慮し気持ちよく入浴していただけるよう支援している	午後週3回を基本に、利用者の体調やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。希望により入浴剤を使用し、おしゃべりしながら、ゆったりと入浴している。利用者の希望により、同性職員の対応も可能である。困難な場合は、無理強いせず様子に合わせた声掛けを行い対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出て、他の入居者様と会話、カラオケ等興味のあることでの活動を促し夜間良眠できるよう生活リズムを整える支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにしている 服薬時はスタッフが二人で確認したうえで必ず手渡しをして服薬を飲み込まれるのを目視で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々楽しみと気分転換の支援に心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を聞き出来ることを家族地域の人と協力し合い外出する支援をしている	近所のドッグランで散歩したり、もみじ狩りや花見などの行事ごとや外食、地域行事への参加など、利用者の希望にそった支援に努めている。家族の協力を得て、外食にでかける利用者もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での買い物は楽しいことです。ご家族様の思いとご本人に喜んでいただけるようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な方とのつながりを大事にして、いつでもお手紙や電話を取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花、絵等で季節を感じていただき喜ばれています。照明温度等皆さまの要望に応じています 音楽を流して気持ちよく過ごしていただいています	リビングにはお雛様が飾られ、季節感を味わえる。以前病院施設だったため、廊下やトイレなど広く、ゆったりとしている。全体的に落ち着いた色調で、空気の淀みなく、光・温度・音が適切に管理されている。リハビリ室があり、筋力維持のため機能訓練を行なうことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなテレビ番組、カラオケ等楽しめる場所を用意しています その時の気持ちによって一人になれる椅子も用意しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の好きな物品、ご家族様のご意見を参考にゆっくりと安心して過ごしていただける居室にしています	居室入口に、利用者それぞれの好みの暖簾が掛けられており、その人らしさを感じることができる。ベッド、タンスは備え付けがあるが、その他は、使い慣れたものが持ち込まれ、利用者が気持ちよく暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の出来ることを大切に毎日を安全に生活していただける環境を整えて見守りをしています		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		新型コロナウイルス感染症対策	入居者様、スタッフ一人として感染しない (絶対にウイルスをホームに持ち込まない)	スタッフはマスクを付け、出勤時には入室前の検温、手洗い、うがいを実施(以前から行っている)特に気をつけて行なう。 ご家族の面会は自粛していただく。出入りの業者は出来る限り、玄関の外で対応する。	6か月
2		支援経過記録の短期目標にケアプランが反映できていない	ケアプランを立てたとき、変更したときに同時に短期目標に変更する。		3か月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )